



令和8年9月1日
目黒区立不動保育園園長

蝉の抜け殻集めからトンボ探しに変わり、秋が近づいていることを感じます。先月のプール、水遊びでは健康チェックや準備にご協力いただきありがとうございました。子どもたちはプールや水遊びを満喫する一方、夏ならではの遊びや経験を友達や保育士と楽しむことができました。先日乳児クラスでは丸いスイカを子どもたちの目の前で切ってもらい食べました。半分に割ったスイカの中から赤い実と種が現れ「わあ 種が入ってる」と歓声をあげて喜んでいました。普段から食べている食べ物も姿が変わったり、調理を目の前でみたりすることで食材への興味を広げています。丸いスイカに包丁を入れる様子が印象に残った2歳児クラスの子どもたちは早速次の日、スイカを手作りし、スイカ切りを再現して楽しんでいました。1歳児クラスではカブト虫を飼いました。飼い始めたころは“なんだろう”と戸惑った表情の子どもたちでしたが、保育士が指先で触って嬉しそうな顔や驚いた顔をしながら世話をしていくうちに、少し触ってみようと近づいたり、やっぱり怖くて離れたり様々な表情で興味や愛着を感じて表現していました。身近な大人の感情豊かな表情が子どもに伝わりとても楽しそうな様子を嬉しく思いました。0歳児クラスの涼しい日の散歩では落ちていた木の皮を手にすると皮がパリッと割れ、保育士が「割れちゃったね」と声を掛けると繰り返し手に触れて偶然の遊びを楽しみ自分の世界を広げています。子どもたちは保育士との安心した関係の中で多くの出逢いを楽しんだ夏になりました。

～行事予定～

総合避難訓練	(全園児)
中旬 身体計測	(全園児)



心も体も大切にできる子ども

～看護師より～

毎朝保育室に子どもたちの様子を視診します。小さいクラスの子どもたちは、“怪我を診る人”ということがわかっていて、「痛い痛い」と眉を近づけ痛そうな表情をして以前擦りむいた傷やかさぶたになっている傷を指さします。「ここが痛いね」と傷をそっと撫でると、笑顔になって遊びへと戻って行きました。5歳児クラスでは元気のない子に「どうしたの」と尋ねると、「頭は痛くないけど、喉が痛くてちょっとだるい」と自分の体調を教えてくれ、具体的な表現に感心しました。大きいクラスの子の中には色々な気持ちがあって、心が沈んでいたり、悲しい気持ちの子が事務所にやってくることもあります。「どうしたの、絵本読む？」としばらく事務所の片隅で絵本を読んだりしながら一緒に過ごすと心が穏やかになり「帰る」と言ってクラスの遊びに戻って行きます。一人ひとりの子どもたちの仕草や声に耳を傾け関わっていく中でいつも見守られている安心感が、自分の不調を伝えながら「自分の体を大切にしたい」という気持ちに繋がっていきます。

プールあそびたのしかったね

～子どもたちの成長の姿を紹介します～

『プールでへ～んしん！』 ～3 歳児クラス コスモス組～

「忍者に、へ～んしん！」と保育士が手を合わせて忍者ポーズをとると、忍者修行が始まります。両手を前や後ろについてワニやラッコの様に足を浮かせて進んでみたり、フープのトンネルをくぐったり、水しぶきをあびたりとプールならではの技を磨きながら、友達と一緒に「楽しいね」と言い合っています。最初は顔などに水が掛かる事を嫌がっている子もいましたが、忍者になりきっていろいろな活動を楽しむ中で、水がかかることを気にすることより、水と親しみながら友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、「ワニ歩きができた」「フープがくぐれた」など“できた”という思いを膨らませ「プールだいすき」になった子どもたちです。



『せんせい みててね』 ～4 歳児クラス マーガレット組～

ワクワクから始まったプールでは、大きな水しぶきが顔にかかる「ばちゃばちゃしないで！水がかかっちゃう」と泣きそうになったり怒ったりする半面、友達が顔をつけたりもぐったりしているのを横目で見て本当は自分もあんなふうに出るようになりたという気持ちもあります。「ぶくぶく大会しよう」と水面に口をつけてぶくぶくする遊びをすると“それなら出来るかも”とおそろおそろ口をつけぶくぶく…。顔をあげて「できた」と嬉しそうにしていました。出来たことが嬉しくて少しずつ勇気が湧いてくると「お風呂で練習したんだ」とおうちで試した事をプールでもやってみようとしたり、鼻をつまんで顔をつけてみたりと自分のことから少しずつ挑戦を重ねています。自分で「できた」と思えるようになってくると「先生みててね」とカエルのようにしゃがんで顔を水面すれすれにして移動したり思い切って顔をつけたりしています。「すごいね」と驚くと笑顔があふれ自信に満ちた表情に変わっていききました。友達の姿に憧れを持ち、ドキドキしながらも一人ひとりが挑戦したプールでした。

『ひと夏の成長』 ～5 歳児クラス ヒマワリ組～

プールが始まる前に「できるようになりたいこと」を聞き、それぞれの目標を決めて取り組みました。「マーメイド～」とフープの中を回転しながら通り抜けたり、フープの位置を「もっと高く」と要求し、イルカジャンプのレベルをあげたりして、回を重ねるごとにどんどんダイナミックに目標に向かって挑戦していきます。そんな中、水面に顔をつけるのが苦手な友達が、自分の番が来ると潜るのに勇気が出ず止まっていた。保育士が手を繋ぐと少しだけ潜れるようになり、ついに自分のタイミングで初めて顔をつけて潜れた時は「すごい！潜れたね」とみんなから拍手喝采がおきました。自分の順番を待っていただけのように思っていたのですが、友達が挑戦していることにも気づき応援していたことが伺えました。友達とダイナミックにプールに入的过程中で自分の挑戦だけではなく、仲間の挑戦も喜び合う子どもたちの姿に成長を感じました。

